

救護班作業報告書提出ノ件

昭和二十年八月三十一日

長崎医科大学第十一医療隊

隊長 永井

隆

西浦 上出張所長 殿
長崎県防衛本部長 殿
長崎 市長 殿

八月九日原子爆弾被害者に対する長崎市西浦上三山救護班作業報告書
別紙の通り提出候也

西浦上三山救護班作業報告書

長崎医科大学第十一医療隊

一 一般情況

昭和二十年八月九日原子爆弾攻撃により発生せる患者多数西浦上三山町附近に避難し居るも同方面には救護所の開設或は巡回診療なくして傷者は未処置の儘放置せられありたり依て本隊は長崎市庁西浦上出張所と連絡し同方面の救護に任じたり

三、本隊の名称及び編成

イ、名称 長崎医科大学第十一医療隊（物理的療法科班）

ロ、編成 隊長 助教 永井 隆

副隊長 施焜 山

庶務 清水 美徳

隊員 長井 道郎、堤 一真

施景 星

看護婦長 久松 シソノ

看護婦 大石 百枝、橋本 千東子

椿山 政子

（計 十名）

三、救護情況

イ、期間 自八月十二日至八月二十二日の十一日間

ロ、地域 西浦上川平町、三山町

ハ、方法 各戸訪問巡回診療法

患者は既に自宅或いは知人宅に收容せられあり且つ救護所に適當なる建築物無く又敵機爆襲の下多人数の集合は危険なるを以て患者は各戸に静養せしめ之を訪問治療することに決せり、然れども民家は山腹或いは河畔に散在し、行動範囲は字三組、河内より字睦別当に至る概ね七軒の間に亘り屢々敵機の

来襲を受け待避を繰返し昼は炎天下山地の行軍、夜は灯火の不足に困難を感じ殊に隊員自身原子爆弾による被害者にして大半は負傷し居り且つ衛生材料も充分ならず作業は相当の辛苦を克服して遂行せられたり、患者の病状に依り毎日訪問して綑帯交換するもあり、数日の間隔をおきて診療せるもあり救急処置の需めに依り随附くるもありたり

一 患者

甲 放射線障害

(1) 即時性障害

爆死

皮膚障害

(皮膚型)

三〇名

(2) 早発性障害

消化器障害

(消化器型)

八名

血液障害

(出血型)

四名

(3) 遅発性障害

乙 一 銃外傷

四〇名

丙 混合傷

九名

計

九一名

本治療方針

○皮膚型：傷面の不潔なる痂皮を除去しオキシフルにて清拭し千倍リパノールガ

ーゼを当て或いは油脂を塗布し、尙ほ特殊物理的療法として鉱泉温浴法

を併用せり、則ち三山町六枚板に金山の磨坑より湧出する無色透明稍淡味及び硫化水素様臭氣を有する冷泉ありて古来火燒及び創傷に治効ありと称せられたりしが本隊長も亦予ねて物理的療法の一として実験し其の有効なることを確認し居りしを以て大いに之を活用せり

○消化器型

爆撃後二三日乃至一週間後に口唇部に小豆大の膿疱多数を生じ次いで口内にも同様の膿疱続発し破れて潰瘍となり厚き黄褐色の舌苔を衣し悪臭を放つ潰瘍性口内炎を發生す、日時経過と共に食慾不振、悪心、嘔吐等の胃症狀を發す、この経過より推察するに潰瘍性炎は口腔より消化器粘膜を下降性に侵しつゝ直腸に至る全系を侵すものゝ如し、而して患者は口内の疼痛その他消化器障碍の爲食餌摂取不能となり遂に栄養障碍の爲死亡す、但し他に伝染せるを認めず、この型の患者に対しては安静食餌の注意等一般養護法を施し口内炎に対しては重曹水又は硼酸水の含嗽を行いたるもその進行を阻止し得ざりき胃腸障碍に対しては健胃剤吸着剤等無効に終れり、汚物の処理に関しては赤痢を顧慮し嚴重なる消毒を命じたり

○出血型

小児に於ては一週間後に発症せるものありしも一般には十日以後多くは二週間頃に全身違和感食慾不振を以つて発症す、次いで二三日後に多くは悪感戰慄を伴う四十二度にも達する高熱を發しこの頃より出血性傾向發現し皮下溢血斑、齒齦出血、鼻血、吐血、下血を來し著名なる貧血

を来し死亡す、此の間頭髮の完全脱落を来す者多し、発症以来死に至る迄概ね一週間なり、これに対し止血剤ビタミンC剤の注射、内服を行い新鮮なる果汁を投与するも無効なりき

- 遅発型……余等は今次障害を急性過敏性放射障害なりと判断す、全て放射線障害の人体に於ける発現は波状性にして一定の周期を有す、且つ早期に発現する瘰癧状と後期に発現するものとあり、放射線の被射量大量なりしものは即死或は皮膚障害を受け稍少量なりしものは消化器型乃至出血型を呈したるものならむ、更に少量なりしものに於ては爾今何らかの病徴を發する公算大なり、特にウラン原子の爆発以後ラジウム、ラドン等放射性物質が現場に残留しあらば之より發する放射線によつて障害を被むる虞あり

- 創 傷……創面を清拭しガラス片、コンクリート片、土砂或いは木片等の異物を除去し哆開せる大創は之を縫合しその他必要なる整形手術を施行し、ヨードチンキを以て消毒し之にも亦鉱泉温浴療法を併用せり
- 骨 折……埋没の為骨折を来したるものは多く焼死したるを以て骨折患者は少し、之には副木安靜の既定方針に従いて処理せり

- 脱 臼……無し

- 打 撲……ヨードチンキ塗布療法を行う

- 混合型……上記の各型の混合せるもの多し

へ治療の成績

○ 鉱泉療法の効果……皮膚障害に対して有効にして概ね二週間にして殆んど全

治せり、これを併用せざりしものは尙肉芽面より分泌液を出しつゝあり

て治愈速度に著明なる差異を認め

○ 内科型障害……に対しては試みたる手段全て無効に終れり

四 消費衛生材料（自家所有の材料を使用せり）

綿 紗 五反（一反は十米）

脱脂綿 二〇〇〇瓦

巻軸帯 八裂一反、六裂三反、四裂一反

薬品

アルコール 二〇〇〇〇

オキシフル 五〇〇〇〇

リバノール粉末 五〇〇瓦

マーキユロクローム粉末 一〇〇瓦

硼酸末 五〇〇瓦

ヨードチンキ 五〇〇〇〇

クレゾール石鹼液 一〇〇〇〇

植物性油 一〇〇〇〇〇

注射薬

ビタカンファール	一	〇〇	五〇	本
デギタミン	一	〇〇	二〇	本
ビーシタミン	二	〇〇	二〇	本
メタボリン	一	〇〇	三〇	本
トロンボージェン	二	〇〇	五	本
アクデゾール	二	〇〇	一〇	本

内服薬

テラポール	三	〇〇	瓦
フエナセチン	二	〇〇	瓦
健胃散	五	〇〇	瓦
炭末	二	〇〇	瓦
重曹	一	〇〇	瓦

三、隊員の給与及び輸送

給与は全て自家給与によれり、輸送は全て徒歩にして車輛を使用せず

患者名簿

三山町

六十五名

皮膚障害

消化器障碍

血液障害

一般外傷

混合傷

川平町

二十六名

皮膚障害

消化器障害

一般外傷

血液障害

統計

計	女	男	
七 六	三 八	三 八	成 人
一 五	六	九	小 兒
九 一	四 四	四 七	計